

第 23 回(令和 5 年度) 一般財団法人材料科学技術振興財団 山崎貞一賞 募集要項

1. 授賞対象

授賞対象は、日本国内で研究開発を実施し、論文の発表、特許の取得、方法・技術の開発等を通じて、実用化につながる優れた創造的業績をあげている人とし、1 分野 1 件以内とします。

尚、当該の業績に係る候補者は複数人(業績に対し不可欠の寄与をした者、総計 3 名以内)とすることができますが、この場合はこれを 1 件の応募とみなします。

2. 授賞対象分野

第 23 回山崎貞一賞の授賞対象分野は以下の 2 分野です。

(1)「計測評価」

(2)「バイオ・医科学」

※授賞対象分野の詳細に関しましては、3 ページ目の参考資料をご覧ください。またはホームページ (<https://www.mst.or.jp/Portals/0/prize/index.html>) をご覧ください。

※応募内容によりましては、選考過程において、分野を変更いただく可能性がございます。ご了承ください。

※山崎貞一賞の対象分野は「材料」「半導体及びシステム・情報・エレクトロニクス」「計測評価」「バイオ・医科学」の 4 分野からなり、隔年で 2 分野ずつ募集を行います。

3. 内容

(1) 受賞者の国籍は問いません。

(2) 受賞者全員に賞状および各分野に対し賞金 300 万円を贈呈します。

(3) 贈呈式典は 11 月に執り行う予定です。※新型コロナウイルス感染症の状況により判断します。

(4) 過去に応募し選に漏れた人でも、再応募可能です。その際、新たなる発展、新たなる資料をお持ちの場合は、それらも提示して応募書を作成し応募してください。

(5) 複数人(総計 3 名以内)で応募される場合は、各人につき応募書に詳細な寄与実績を記入してください。それぞれが異なる組織に所属していても応募可能です。

4. 募集期間

令和5年3月1日(水)～4月15日(土)

※今回より、募集期間が変更となっております。

5. 本応募に関する連絡先

一般財団法人 材料科学技術振興財団 山崎貞一賞事務局

住 所 : 〒157-0067 東京都世田谷区喜多見 1-18-6

T E L : 03-3415-2200(直通) F A X : 03-3415-5987

E-mail: prize@mst.or.jp

URL: <https://www.mst.or.jp/Portals/0/prize/index.html>

～参考資料:授賞対象分野について～

山崎貞一賞の授賞対象分野は少なくとも以下のようなテーマを含みます。

(1)「計測評価」

計測評価分野は、計測機器・分析機器、計測技術・分析技術、シミュレーション・解析技術の開発並びに計測方法の創出など、計測・分析・解析技術に係わる広い範囲を対象とする。

新たな応用分野の開拓や未解決な課題への解決手段の提示、異分野間の交流促進を通じて各分野の発展の牽引力ともなる技術開発に繋がる、以下のような項目に関連する領域を含む。

| | |
|---|--|
| ① | 計測・分析機器及びこれらを用いた状態・構造・組成及びそれらの時間変化の解析・分析技術(表面・界面・局所分析、ナノ物質・材料計測、半導体デバイス分析・評価、環境計測・分析・評価など) |
| ② | 原子・分子・イオンの認識・分離・検出技術(単一分子計測、膜分離、分子認識試薬など) |
| ③ | 医療分野バイオサイエンスにおける診断・検査機器及び技術開発(医療診断・検査、生体情報計測・分析・評価、医薬品検査など) |
| ④ | 産業・社会システム機器及び技術(監視・制御システム、リモートセンシング、センサネットワークなど) |
| ⑤ | 情報解析及び知的基盤関連技術(信号処理、データ解析、ビッグデータ解析、材料設計シミュレーション、計量標準・標準物質、化学物質安全性予測など) |

(2)「バイオ・医科学」

医療を含むバイオ関連分野の研究、技術の開発・方法の創出による本分野の進歩発展と産業の促進や健康で豊かな国民生活の実現に通ずる顕著な貢献に基づき授与される。本分野は生命現象の解明および活用を目指した分野であり、インフォーマティクスを含む理論的アプローチ、並びに計測技術、合成技術などを含む実験的アプローチを含む。

具体的には以下のような項目に関する領域を含む。

| | |
|---|--|
| ① | バイオ・医科学分野における診断・検出・計測・検査機器に関する技術開発:自動化技術および分子イメージング等画像関連技術を含む |
| ② | バイオインフォーマティクスに関する技術開発:生物情報のシステム化・活用、生体機能シミュレーションなどを含む |
| ③ | バイオ・医科学分野の材料開発:生物関連材料の分析、合成、精製、製造システム開発、ナノバイオサイエンス、ケミカルバイオロジー、たんぱく質、核酸、糖質に関する技術開発を含む |
| ④ | 生体組織・機能創生、再生医療関連技術:組織修復、組織培養、iPS 関連、疑似組織、オルガノイドなどを含む |
| ⑤ | 創薬・製薬に関する技術開発:作用機序の発見を含む |
| ⑥ | 食料に関する技術開発 |
| ⑦ | 環境保全に関する技術開発:微生物及び植物の育種、生産などに関する技術開発を含む |

以上